

種別	番号	作業名	校正手順書		ページ	
Q GW	Q GW-041	温度計の校正作業			1 / 1	
No.	作業項目	作業条件・要領	ポイント・注意点			
1	準備	1) 校正用測定器具：標準棒状水銀温度計（以下、標準器という） 2) 恒温水槽 3) 定期校正実施表あるいは校正記録表	・校正用器具は、外部校正済のものとする。			
2	外観確認	欠品、破損なきこと。				
3	校正準備	1) 恒温水槽に水又は混合液（水十不凍液）を入れる。 2) 被校正温度計（以下温度計という）を恒温水槽の銅塊の穴に差し込む。 3) 標準器を恒温水槽の銅塊中央の穴に差し込む。 4) 恒温水槽のメインスイッチ ON。 5) 恒温水槽の攪拌ポンプスイッチON。 6) 恒温水槽のヒータースイッチ ON。 7) 恒温水槽の冷凍機スイッチ ON。	・温度計を破損しない様に注意すること。 ・標準器を破損しない様に注意すること。			
4	校正	1) 校正温度で安定（温度変動巾±0.5℃以内）した時点より30分経過後に測定する。 2) 標準器の値と温度計の値を測定する。 3) 校正温度を変えて上記1)、2)を繰り返す。	・校正温度は10℃、60℃とする。（但し、使用温度に応じて決定しても良い。測定点は2点以上とする） 設定幅は±1℃とする。			
5	作業終了	1) 恒温水槽の冷却器スイッチ OFF。 2) 恒温水槽のスイッチ OFF。 3) 標準器を取り出す。 4) 温度計を取り出す。 5) 混合液をポリ容器に移す。（混合液の場合）				
6	記録	1) 定期校正実施表に、4項の測定結果及び誤差を記入する。 誤差は下記式により、算出する。 誤差 = 温度計の値 - 標準器の値 2) 誤差のパーセント（%）を算出し記入する。 ①アナログ 誤差/フルスケール × 100% ②デジタル計 誤差/指示値 × 100% 3) 上記の結果を「計測器管理システム」に登録する。				
6	判定	誤差が±1.0%以内は合格とする。	・温度計の仕様がはっきりしていれば、仕様にて判定すること。			
品質管理チーム					作成日	
改定欄	記号	改定理由	年月日		サイン欄	XXXX年YY月ZZ日
			年月日		ディレクター	マネージャー
			年月日		リーダー	担当
			年月日			